

聖書：第二サムエル記 24 章 1～9 節

説教：なぜ、このようなことを望むのか

1 主の怒り

1) ウザ打ち事件 (6 章 7 節)

今朝は第二サムエル記の最後の章を開いています。サムエル記は、ダビデの生涯を通して、神がどのようにイスラエルを導かれたのか、その様子を歴史小説のように描いています。その最後の箇所ですから、ハッピーエンドで締めくくられるのかと思うと、まったく反対で、ここにはダビデの罪が描かれています。

そのダビデは 23 章で、「義をもって治める者、神を恐れて治める者は、太陽の上る朝の光、雲一つない朝の光のようだ」と語っていました。イスラエルを治める王は、神の前に正しいことを行わなければならないことを知っていたのに、いったいどうしてこんなことになるのか。また、ここにすることが私たちにとってどんな意味があるのかを考えていきます。

1 節に「さて、再び主の怒りが、イスラエルに向かって燃え上がった」とあります。「再び」というのですから、以前にも同じようなことあったはずです。調べてみると 6 章 7 節にそのことが出てきます。神の箱を車に乗せて移動していたときのことで、引いていた牛が急に暴れ出し、神の箱がひっくり返りそうになります。そのときそばにいたウザという者がとっさに神の箱に手を伸ばします。すると、主の怒りがウザに向かって燃え上がり、ウザは不敬の罪のために死んでしまったということがありました。直接にはウザが神の箱に直接手を触れたことが原因でしたが、

悪いのはダビデだったのです。自分が王さまに就任した記念行事にしようとして、りっぱな車をつくり盛大なパレードを企画しました。けれども、神の箱は人の手でかつぐようにとあらかじめ神から指示されていたのです。罪を犯したのはダビデです。その結果、ウザが死んでしまいました。それが以前に起きた事件でした。

2) イスラエルの罪

ではここでは、どんな問題があつて神が怒りを燃やすのでしょうか。いっけん、ダビデが人口調査をしたことが問題になっているように見えます。しかし、1 節には「再び主の怒りが、イスラエルに向かって燃え上がった」とあります。実は、ダビデが人口調査をしたことが、神の怒りを引き起こした直接の原因ではない。何かは書いていないけれど、イスラエルの中に見過ごすことのできない罪があつたようなのです。その罪をさばくために、主はダビデに人口調査をするように働きかけ、そのことでダビデが罪を告白し、悔い改めていく。非常に奇妙に見えますが、どうもそんな流れになっています。

2 人口調査

1) 主の命令 (民数記 1 章 2 節)

疑問が沢山湧いていきますが、そのなかでも一番気になることは人口調査のことでしょう。やっではいけなかったのか。もちろんそうではない。民数記という書があります。名前の通りに民を数えることにちなんでつけられた人口調査の書です。その民数記 1

章2節にこうあります。「イスラエル人の全会衆を、氏族ごとに父祖の家ごとに調べ、すべての男子の名をひとりひとり数えて人口調査をせよ。」これは主がモーセに告げた命令です。人を数えることそのものが問題なのではない。では何が問題であったのか。

2) ヨアブの疑問

1節の後半を読みます。「主は、『さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ』と言って、ダビデを動かして彼らに向かわせた。」人口調査をするようにダビデを動かしたのは主です。ダビデは主の命令に従っただけのように見えます。ところがダビデの側近であったヨアブは、この命令を聞いて納得できなかったようです。3節でヨアブはダビデにこう言っています。「あなたの神、主が、この民を今より百倍も増してくださいますように。王さまが、親しくこれをご覧になりますように。ところで、王さまは、なぜ、このようなことを望まれるのですか。」

ヨアブはダビデの中に大きな問題を感じています。それが「なぜ、このようなことを望まれるのですか」という問いかけに表れています。

3) 目的 (出エジプト記30章11節以降)

どんな問題があったか。それを知るためには、そもそも聖書において人口調査はどんな意味を持っていたのか。そこを確認する必要があります。出エジプト記30章11節以降にそれがあります。「あなたがイスラエル人を登録するため、人口調査をするとき、その登録にあたり、各人は自分自身の贖い金を主に納めなければならない。これは、彼らの登録によって、彼らにわがわいが起こらないため

である。」

たかだか戸籍登録をすることで、どうしてわがわいが起きるのか。読んで驚きます。

聖書の人口調査は、神の救いに入れられた者であることをきちんと確認して、それを記録してく、そういう意味が込められていると考えるとわかりやすいかも知れません。罪ある者が罪の贖いをせずに登録することは、絶対に許されない。もしそんなことをしたら民にわがわいが降りかかる、それほど厳しい区別をしなければならぬ、ということでしょう。

たとえば、こういう例を考えてみましょう。洗礼も受けていないし、信仰告白もしていない、まして神を信じていない。そういう人が勝手に「私はクリスチャンです」と名乗り、教会員名簿に登録するようにと要求したとしましょう。もしそういうことを無秩序に許したらどうなるか。わがわいが教会の中に起きるのは確実です。だから、教会では洗礼諮問会を開き、皆さんの前で救いの証しを読んでもいただき、きちんと救われていることを確認して教会の名簿に記していく。聖書に記されているとおりに私たちはやっていたわけです。

3 ダビデの罪

1) 私は大きな罪を犯しました

ヨアブは疑問を抱えながらも、人口調査の旅に出かけます。地名を見ると反時計周りにイスラエルをぐるりと一周したのがわかります。時間と労力は大変なものでした。その人口調査が終わってから、ダビデはじょじょに「良心のとがめを感じ」ます。いったい何が間違っていたのか。

おそらくこういうことでしょう。ダビデは

若くしてイスラエルの王となり、大変な苦勞をしながら国を一つにまとめ上げてきました。ペリシテ人との戦いがあり、サウル一族からの攻撃がありました。そして最後は息子であるアブシャロムが父を殺そうとして刃向かってくる。私は苦しみのデパートという言葉方をしますが、数々の試練をくぐり抜けてきた人です。それがいまやっと治安は安定し、国も繁栄してきました。誰もがダビデのことをイスラエルの王として尊敬しています。そんなとき隠れていた罪の思いがふと湧いてきます。イスラエルの王は、どれほどの力を持っているのか知りたくなります。その力を、軍隊の大きさではかろうとします。それで9節でヨアブの報告はこうだったのです。「イスラエルには劍を使う兵士が八十万、ユダの兵士は五十万人であった。」

人口調査は、神の救いに入れられた者を登録するためにだけ行われなければなりません。ところがダビデは自分の力を誇るためにやっけてしまいます。ヨアブは、そのことに気がつき、「なぜ、このようなことを望まれるのですか」と問いかけました。しかし、ダビデは自分の罪を押し隠し、強引に調査をさせてしまいます。

2) 動機が問題となる

まだ納得できない点があります。そもそも人口調査をせよと命じたのは主ではないのか？それなのにどうしてダビデは罪に問われるのか。このことは確認しておく必要があります。私たちは主の命令であればなにをしてもよいと思いがちです。聖書にこう書かれているから、こうすべきだ、こうすべきでない。しかし、主がご覧になるのは私たちの内側です。律法学者たちは、聖書のみことばに

従おうとした点では実にりっぱでした。しかし動機が間違っていた。そのことを主は口を酸っぱくして指摘しています

ではダビデはどうするべきであったのか。主の命令を聞いたとき、自分の心の中にあるものを主に告白すべきではなかったのか。

「主よ。今私の中には自分を誇ろうとする思いがあります。人口調査をする資格はありません。」ことわれればよかったのです。でも、ダビデは罪の誘惑に負けてしまいました。

3) 王の罪が民にわざわいをもたらす

主はダビデが罪に負けることを知っていたはずですが、それなのにわざわぎさせるのでしょうか。そしてもっとわからないのは、このダビデの罪のために、まったく関係のない七万人の人たちが疫病で死んでしまうことです。こんなめっちゃくちゃな話はありません。罪のさばきを受けるのはダビデ一人ではないはずではないか。

そもそも、誰の心にも自分の業績や力、能力を誇りたいという思いが隠れているのではないか。そんなことも許されないのでしょうか。今日の所にあるとおりです。イスラエルの王の場合に限り、許されません。たとえどんなに小さな罪であろうとも、その罪の影響は残酷な結果を招いてしまいます。ここでは七万人が死ななければならなかった。それほどまでに、イスラエルの王は聖さを厳しく求められるのです。ダビデはそのことに失敗してしまいます。

4) 聖い方の恵みは民にいのちをもたらす

いったいこの話のどこに恵みがあるのか。あります。王の罪がこれほどに民をわざわいをもたらすというのであれば、その反対の場

合はどうなるのでしょうか。王がまったく聖い方であるならということです。その恵みはどれほどに民を幸いに導くのか。そういうことになります。

イエス・キリストが私たちの王です。この方がどれほどに聖い方であるのか。皆さんはご存じです。ダビデの罪がイスラエルにわざわいをもたらしたのであれば、私たちの王が主であるのならばどうなのでしょう。その聖さのゆえに、私たちに恵みを施してくださるはずではないですか。ダビデの罪によって七万人が死ぬのであれば、主の聖さによっていったいどれほどの人たちが生きることになるのでしょうか。

神は、ご自分の救いに入れるために人口調査をされます。そのままでは登録できません。登録するためには、贖い金が必要です。その贖い金を払ってくださったのは主です。それで、私たちの名はいのちの書に記されています。

主が恵みのシャワーを注いでくださることを覚えながらこの一週間も歩み出します。